真岡市行政評価システム

評価対象年度　令和7　年度　　**事務事業評価マネージメントシート**　　作成日　令和8年3月13日

事務事業名	資源ごみ回収事業	担当課・係	市民生活部　環境課　ごみ減量係
政策名　No	5　「環境づくり」～安全なまちアップ！～	関連する SDGs･DX	
施策名　No	1　循環型社会の構築		

成果指標 名称	単位	初年度からの実績値の比較 R7	R8	R9	R10	R11	目標値 R11
資源回収日数	日	192					
報奨金及び売上還元金交付額	千円	5,400					
負担金交付額	千円	18,136					

事業内容

・各自治会に、資源ごみ回収報奨金3円/kgと売上還元金1.5円/kgを、真岡地区のみ真岡資源回収事業協同組合に資源〔2〕回収業務を依頼し、運営経費から売却代金を差し引いた差額を負担金（赤字補填）として交付している。
・交付対象品目：資源〔1〕（空き缶、ペットボトル）、資源〔2〕（新聞、雑誌・雑紙、段ボール、牛乳パック、古着・古布、生きビン）
【R6報奨金事業】
回収日数：192日　回収量：1,267t　資源化率：12.8%　回収報奨金・還元金：5,688千円
【R6支援金事業】
回収量754t　一人当たりの回収量9.8kg　売却額8,454千円　売却単価11.2円　負担金額17,546千円

前年度の課題（Check）

・資源ステーションでの回収量は減少傾向であり、資源化率も減少傾向である。新聞販売店の自主回収やスーパーなどの民間の資源物回収サービスの利用の増加、電子書籍による紙媒体による書籍の減少により、地域の資源ステーションでの回収量の減少が続いている。そのため、地域への報償金交付額が減少している。
・真岡地区の資源②を真岡市資源回収事業協同組合に収集委託を行っており、その運営に対し、資源売却代金を差し引いた差額を負担金として交付している。
・資源物の売却単価が昨年に引き続き高値での取引であったが、それ以上に資源の回収量が減少したため資源組合への負担金は増加した。
・市場状況による売却単価の変化で、真岡市資源回収事業協同組合への負担金が変わってくるため、資源物の売却単価の状況を注視していく必要がある。

7年度振り返り

【1】実績（Do）７年度に実施した事業
［報奨金事業］
回収日数：192日　　回収量：1,203ｔ*報奨金・還元金対象　　資源化率：13.89%　　回収報奨金・還元金：5,400千円

［支援金事業］
回収量：1,010ｔ　　一人当たりの回収量：13.3kg　　売却額：7,864千円　　売却単価：7.4円　　負担金額：18,136千円

【2】結果と課題（Check）
・資源回収報奨金及び還元金を交付し、説明会などでごみの減量化と同時に資源化及び資源ステーション利用促進を推進した。
・引続き報奨金、還元金の交付を継続し、また民間（資源回収ボックス設置店舗など）との連携を市内店舗にお願いをしながら、白色トレーなどの回収量や回収先の情報提供などを求めながら、更なるゴミの減量化及び資源化の徹底を図った。
・真岡地区の資源②を真岡市資源回収事業協同組合に収集委託を行っており、その運営に対し、資源売却代金を差し引いた差額を負担金として交付する。
・市場状況による売却単価の変化で、真岡市資源回収事業協同組合への負担金が変わってくるため、資源物の売却単価の状況を引き続き注視していく必要がある。

今後の方向性と具体策

□ 廃止　□ 休止　□ 目的絞り込み　□ 目的拡充　□ 事業統廃合　□ 事業のやり方改善　□ 予算削減　□ 予算増大　■ 現状維持(従来通りで特に改革改善しない)

【3】具体的な改善策(Action➡Plan)　課題に記載された内容の解決に向けた取り組みについて、**いつ、何を、どのように実施し解決に導くのかを具体的に**記載してください。

(1) ただちに取り組むべきこと
・引続き報奨金、還元金の交付を継続し、また民間（資源回収ボックス設置店舗など）との連携を図り、白色トレーなどの回収先の情報提供などを実施し、更なるゴミの減量化及び資源化の徹底を図っていく。
・資源物の売却単価の変化、収集量の増減で、真岡市資源回収強度組合への負担金が変わってくるので、売却単価及び収集量について、注視していく。

(2) 長期的な計画で検討すること
・資源化率の維持